

新撰葬祭考

全

特35

803

館			
函架號			
大日本圖書會			
一	二	四	一
冊	九	架	七
	號		函

014214-000-3

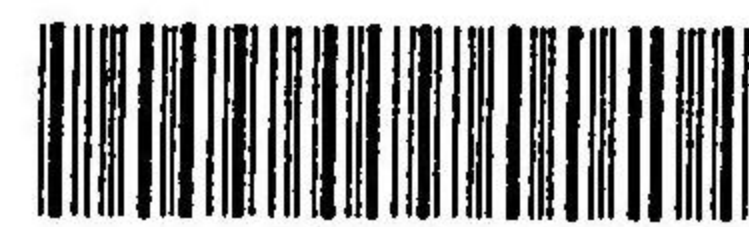
特35-803

新撰葬祭考

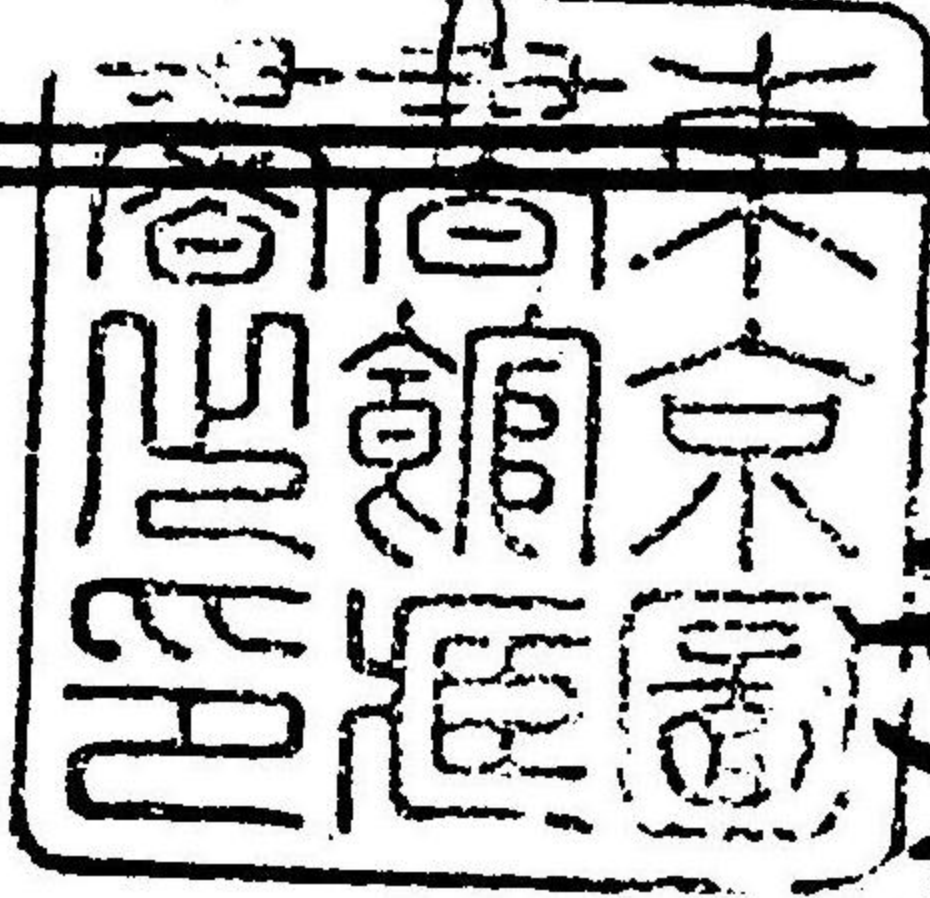
安江 静/著

M9

ABB-0535



特35
803



新刊
藤原
氏

神道以神為幣澹清之
至也上古之事可想耳

審之為考心
毋箴錡駢儉

可觀繁而神也
能乃所不為
禮之也

武俊

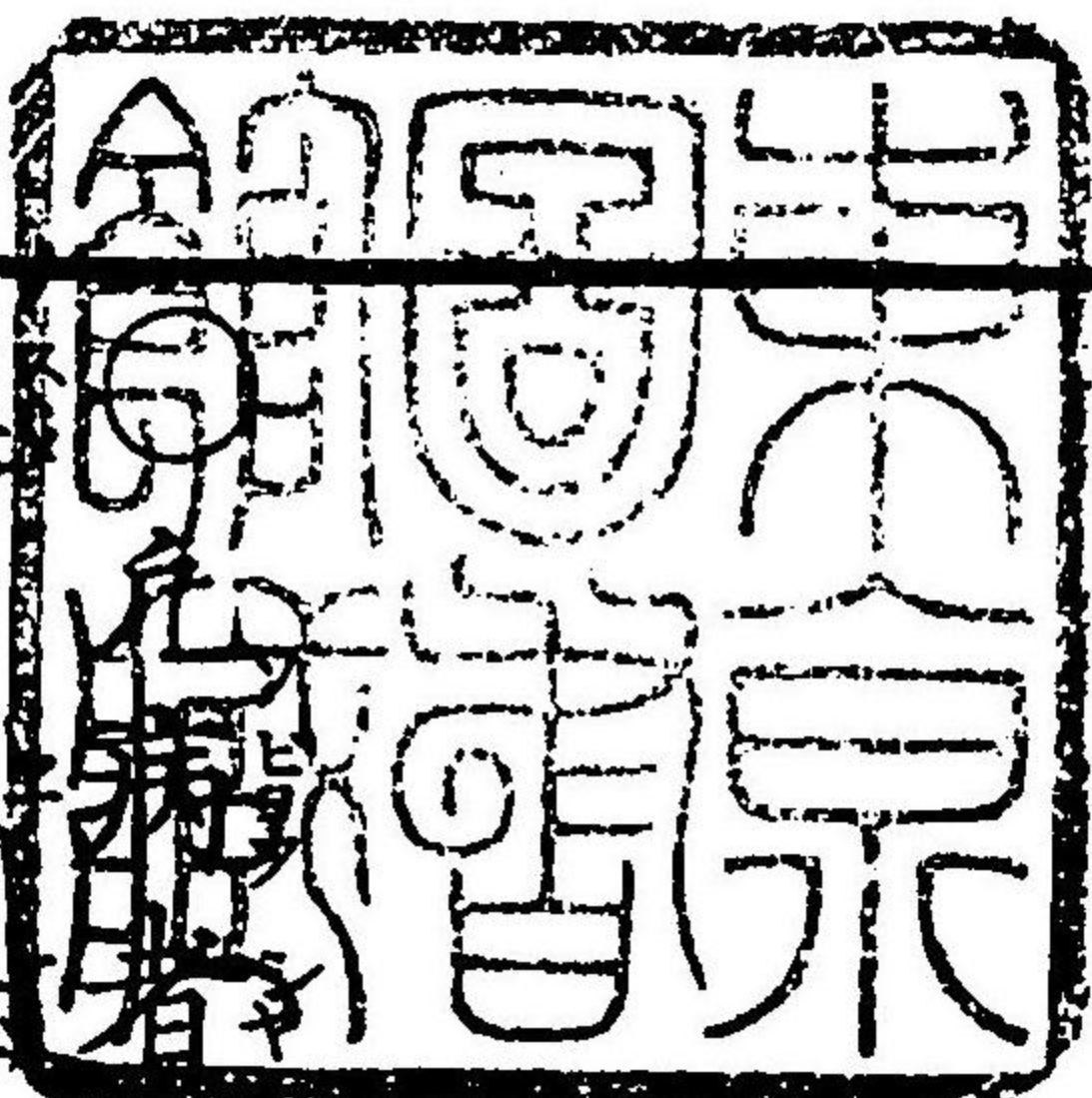
凡例

一此書ハ葬祭ノ侈奢虚飾ヲ去リ誠實易簡ヲ旨トス又葬祭大意人魂要旨ヲ附スルハ僻陋ノ人ヲノ葬祭ノ大禮人魂ノ靈妙ナル所以ヲ略解セシメムト欲ス

一專ラ中等以下ノ爲ニス上等ノ如キハ別ニ新撰上等葬祭式アリ此ニ贅セス

一是ハ曩ニ城南離宮社祠官兼權少講義鳥羽重義ノ乞ルニ依テ一時卒ニ筆スル處ニシテ敢テ大方ノ君子ニ示スニ非サル也

新撰葬祭考



美濃 安江 静 著
 薩摩 野間正綱 校
 尾張 山田録太郎 校
 京都 竹良豊 校

進テ永訣スヘシ己ニシテ内外ヲ静寧ニシ忌服ヲ受ザル者白紙ヲ以テ神棚ヲ緘シ親族死人ノ手足ヲ搔キツクロヒ其上ニ清淨ナル衣服ヲ覆ヒ側ニ守刀女ハ守鏡ヲ置枕上ニ机ヲ設ケ水洗米塩ヲ備ヘ嗣子親族相擧テ一應ノ拜禮ヲナシ更ニ机ヲ設ケ水洗米塩ヲ奠ヘ夜ハ燈火ヲ點シ其卧床ノ周圍ニ

屏風ヲ立テ嗣子親族ノ内暫モ其側ヲ離ベカラス
 ○死ヲ戸長ニ告ケ産土神社ノ神官ニ報ス葬祭ノ
 式ハ神官ニ委託ヘシ
 ○靈璽ヲ造リテ靈主トス

○靈主 檜ヲ用ユ




姓名 靈位

○裏ニ年号月日歿齡何年何月ト記スヘシ
 官位アラハ姓名ノ上ニ記スヘシ

○妻子ハ姓名妻名靈位ト記スヘシ裏書同
 シ子ハ裏書ニ姓名幾男或ハ幾女ト記ス

○帋 白絹或白布白紙ヲ用ユ



姓名 靈位

笏形ニ製スルモ可ナリ

○其靈ヲ靈主ニ遷サン事ヲ遺骸ニ向ヒ再拜拍手
 シテ左ノ詞ヲ告クク
 吾命也悲ク身退坐可留故喪主某葬禮治
 奉止爲留狀乎平久聞食賜天比奇伎神靈乎此靈
 主尔留米給比子孫乃繼々永欠鎮坐世恐美恐
 美白是取捨母ニ告ル恐美ハ兄弟姉妹ハ之
 再拜拍手畢ツテ其靈主ヲ家内ノ清所ヲ檢シ先
 假ニ安置スヘシ
 ○拍手ニテモ神靈ヲ驚カス勿レ家内ノ行歩動
 止ヲ始メ總テ謹慎靜寧ヲ要トス
 ○喪主ハ嗣子タルヘシ子ナケレハ親族者代理ス
 ○葬壇ハ深キヲ佳トス

○棺ヲ造ルニ椀椀或ハ松ヲ用ユ板ノ厚サ一寸二
 三分ヨリ二寸餘長サ其人ニ應シ卧シタルヲ褥ト
 共ニ斂ム可シ○坐榻ノ時ハ棺ヲ駕用ユ柩トモ
 死シタルノ衣服改ム可カラスト雖其病症ニ依リ甚
 タ汚タルコト有テ子弟ノ情忍ビサレハ其身ニ親
 シキ者ヲシテ改メシム可シ必ス沐浴ヲ行フヘカ
 ラス巾帨ヲ滋シテ拭フハ妨ゲナシ
 ○棺ニ斂ムル時其由ヲ神靈ニ告クヘシ
 ○剪爪理髮畢テ正服ヲ着セシメ絹布又木綿襦ヲ
 製シ棺内ニ斂ム常ニ手澤ノ存スル愛翫ノ品ヲ副
 テ斂ムルモ隨意ナリ金銀銅鉄ノ類ハ棺内ヲ填ムル
 ニハ綿式ハ茶蕎麥ノ殻糲藁ヲ縮木綿又ハ白紙ノ

囊ニ入レ遺骸ヲ堅ク誥メ蓋ヲ釘ニテ固ムハ合
 モテ塗ル器ク次ニ帔ヲナシ菰莖ヲ敷キ別室ニ移シ
 其側ニ神木時ノ花ヲ立テ前ニ机ヲ置キ水洗采ヲ
 備ヘ夜ハ燈火ヲ點ス靈前ニ酒饌ヲ供フ藻蓴ノ魚菜
 ヲ供フ○卧棺ハ足ノ
 ○凡出棺ノ期ハ大槪絶息ヨリ四十八時間ヲ度ト
 ス然レ氏炎暑ノ際ハ此例ニアラス
 出棺ノ節喪主再拜拍手シテ左ノ詞ヲ告ク
 哀毛伎カ可痛健可父止坐如留ル姓名命波病免留事
 無欠今年月日幽世邊罷給比志甚毛悔久甚毛
 口惜伎事尔那然礼止爲便那介現世乃定乃隨
 麻御墓處尔奉葬天止之此家乎奉出事乎平久安

又聞食天後毛輕々出立世給止遣恐美恐毛美白
 ○再拜拍手シテ退ク尋テ親族次第ニ拜礼シ畢テ
 緩ニ棺ヲ護シテ出棺ス

○棺 ○檜 ○白布用木綿白 ○褥 ○枕
 ○囊 物ニ入ル棺内ナリム ○白衣 木綿貴賤貧富其ノ

○墓標 ○葬具 ○薪 庭ニ ○乘炬 燈 ○銘旌 布絹或ハ白
 ○手桶 ○柩 ○玉串 喪主已下之ヲ

○靈主 祭具 考出スタルシ圖 ○乘炬 燈 ○銘旌 布絹或ハ白
 ○手桶 ○柩 ○玉串 喪主已下之ヲ

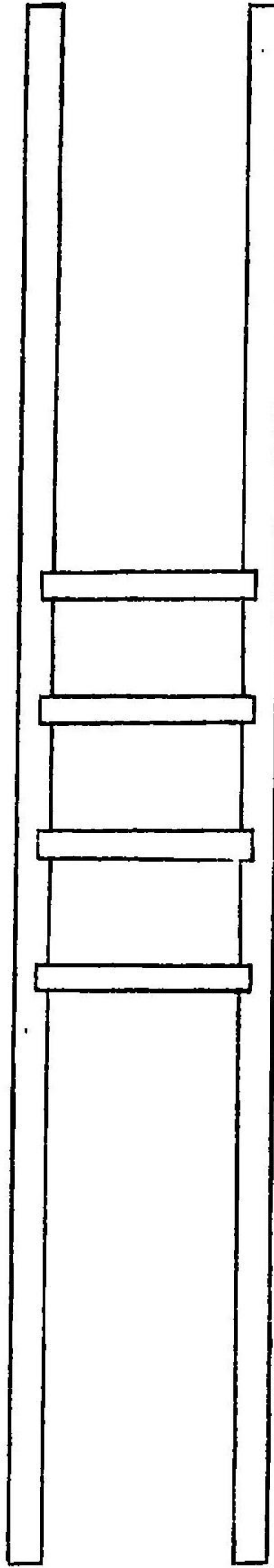
酒 瓶 對子 飯 盛 器 魚 生 乾 内 野菜 花 瓶
 海 藻 時 菓 水 塩 蒞 蓮 時 花
 陶 器 或 燈 大 小 案 茲 蓮
 用 物 ノ 雜 具 ハ 用 物 櫃 ニ 収 メ 搬 運 ス ヘ シ
 行列圖

前驅 乘炬 或ハ提燈 提燈 竹杖 銘旌
 乘炬 同 提燈

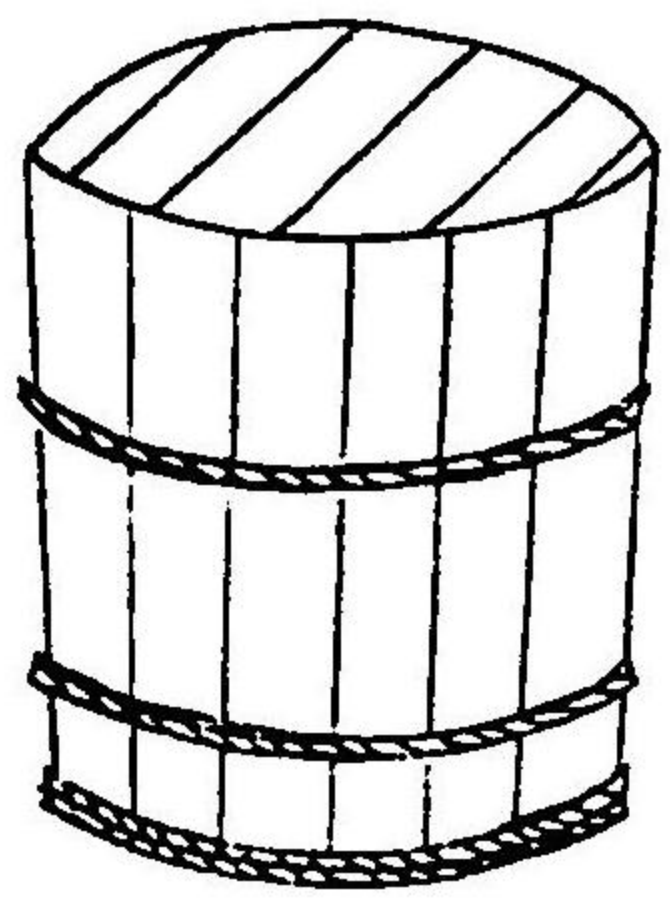
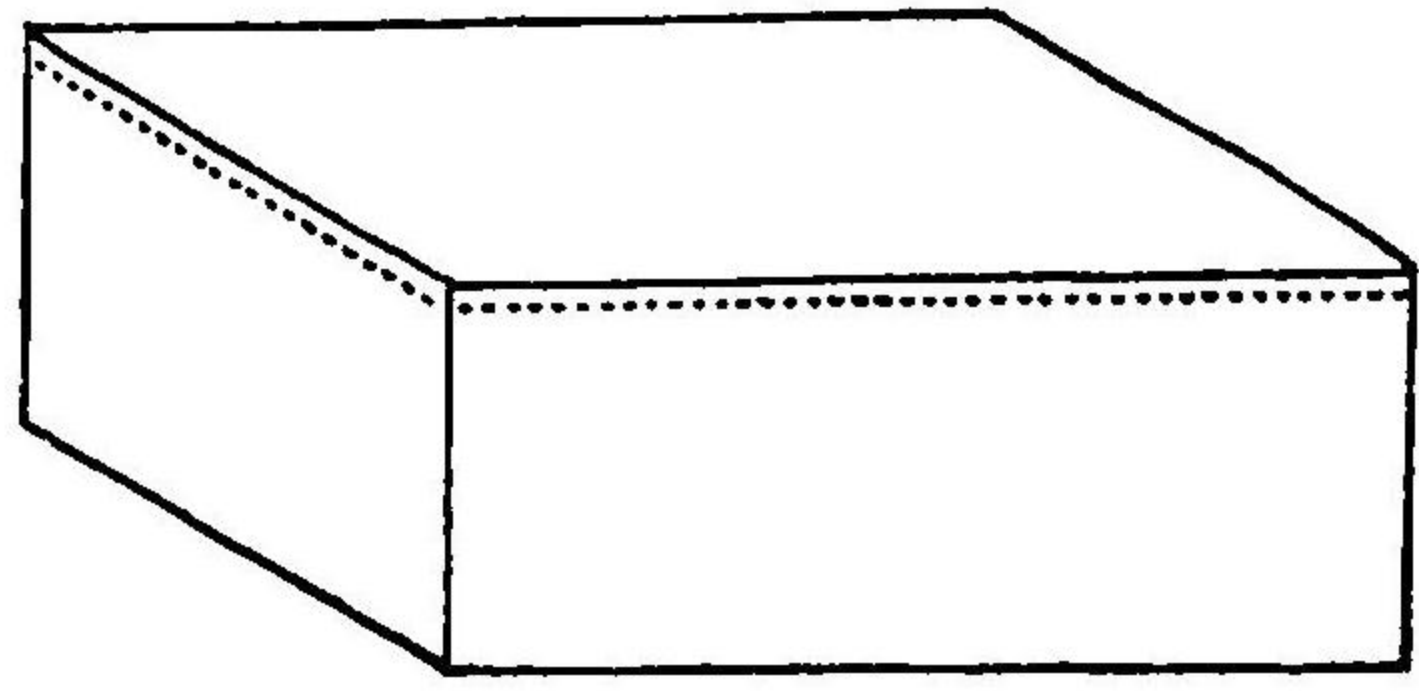
提燈 提燈 供物櫃 神木 付 紙 垂 ヲ 棺 提燈 提燈

墓標 提燈 喪主 親族 雜具櫃 會葬人
 提燈 提燈 親族 雜具櫃 會葬人

大輦



棺



略シテハ桶又甕ヲ用ユルモ
可ナリ

五

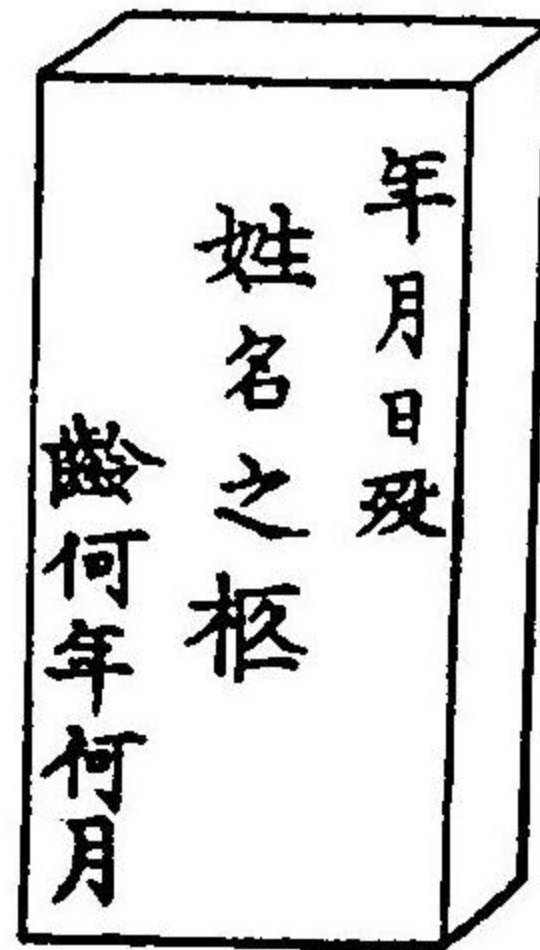
墓標



姓名之父某年某月某日歿

姓名之墓

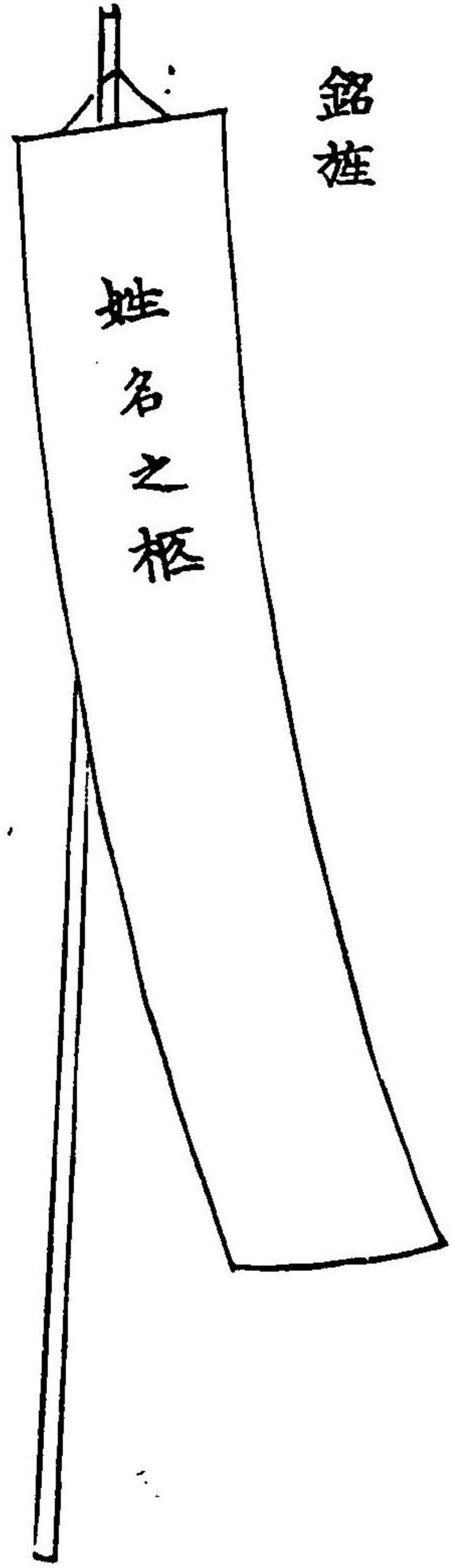
墓誌



年月日歿
姓名之柩
齡何年何月

官位有ラハ姓名ノ上ニ記スヘシ

銘旌

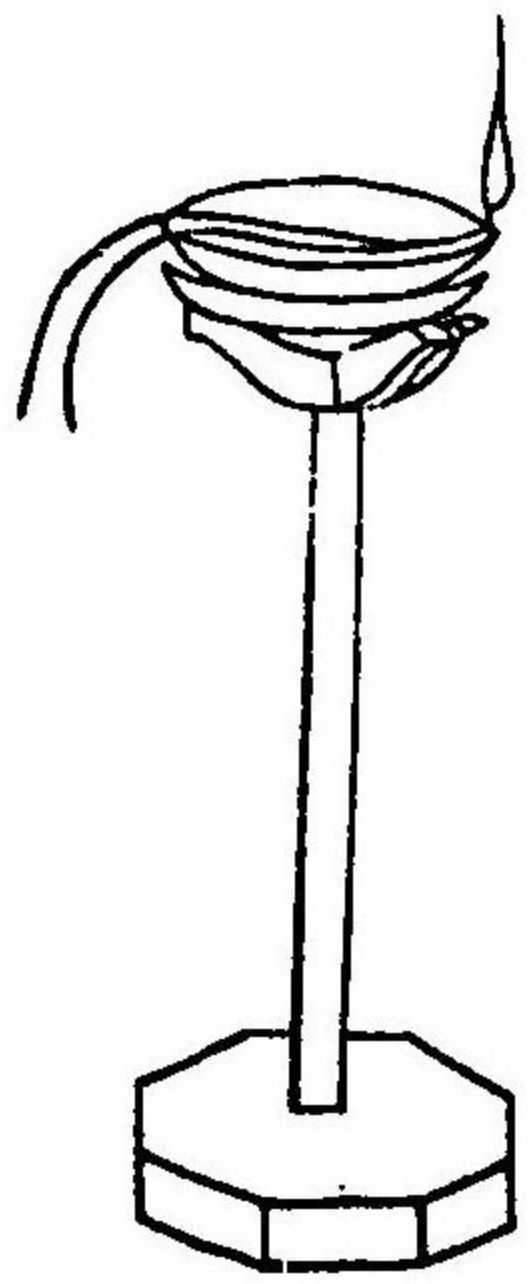


姓名之柩

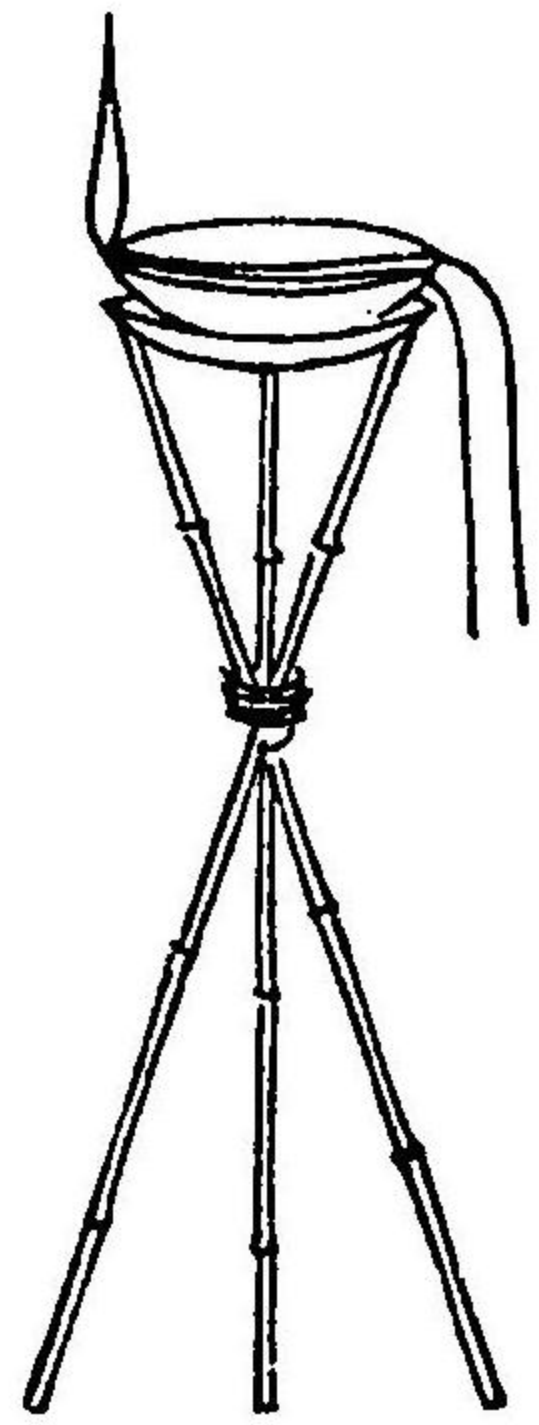
四

靈舎并墓所ノ
燈火ノ圖

靈舎



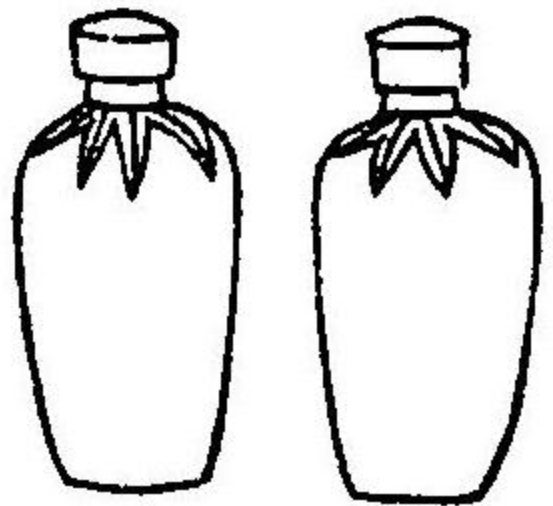
墓所



壺



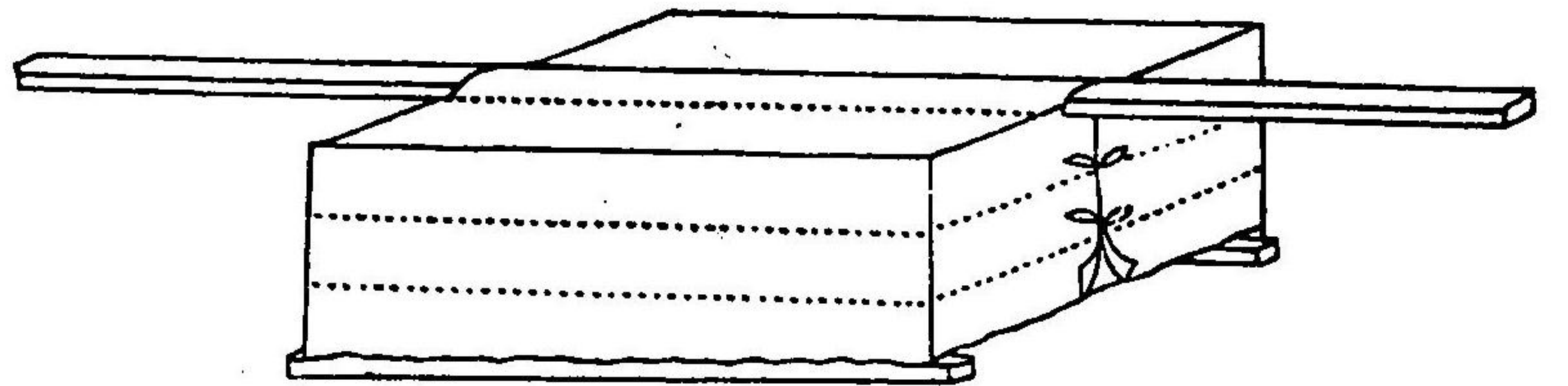
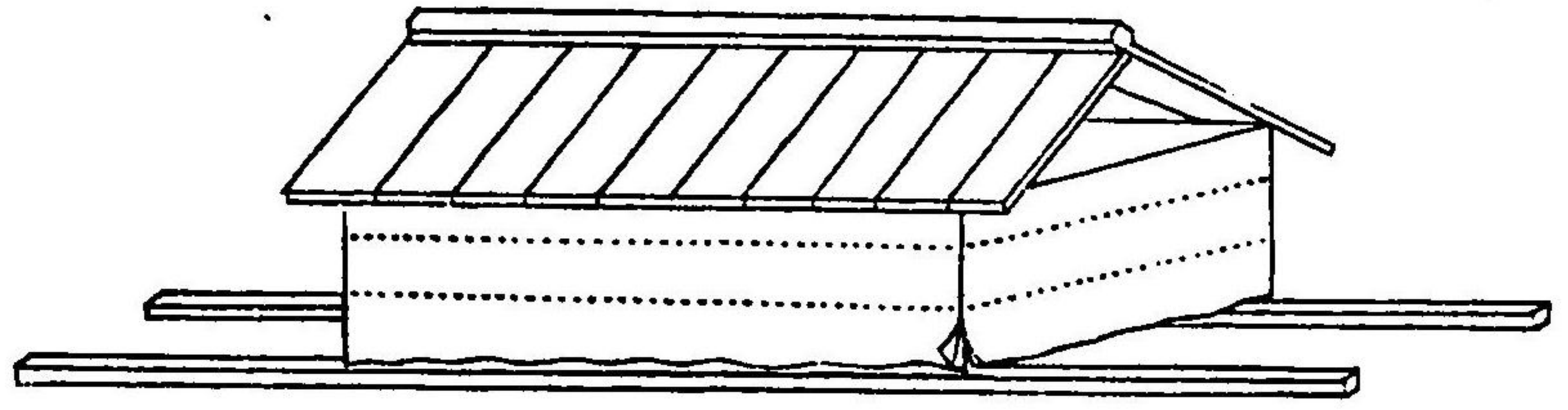
瓶子



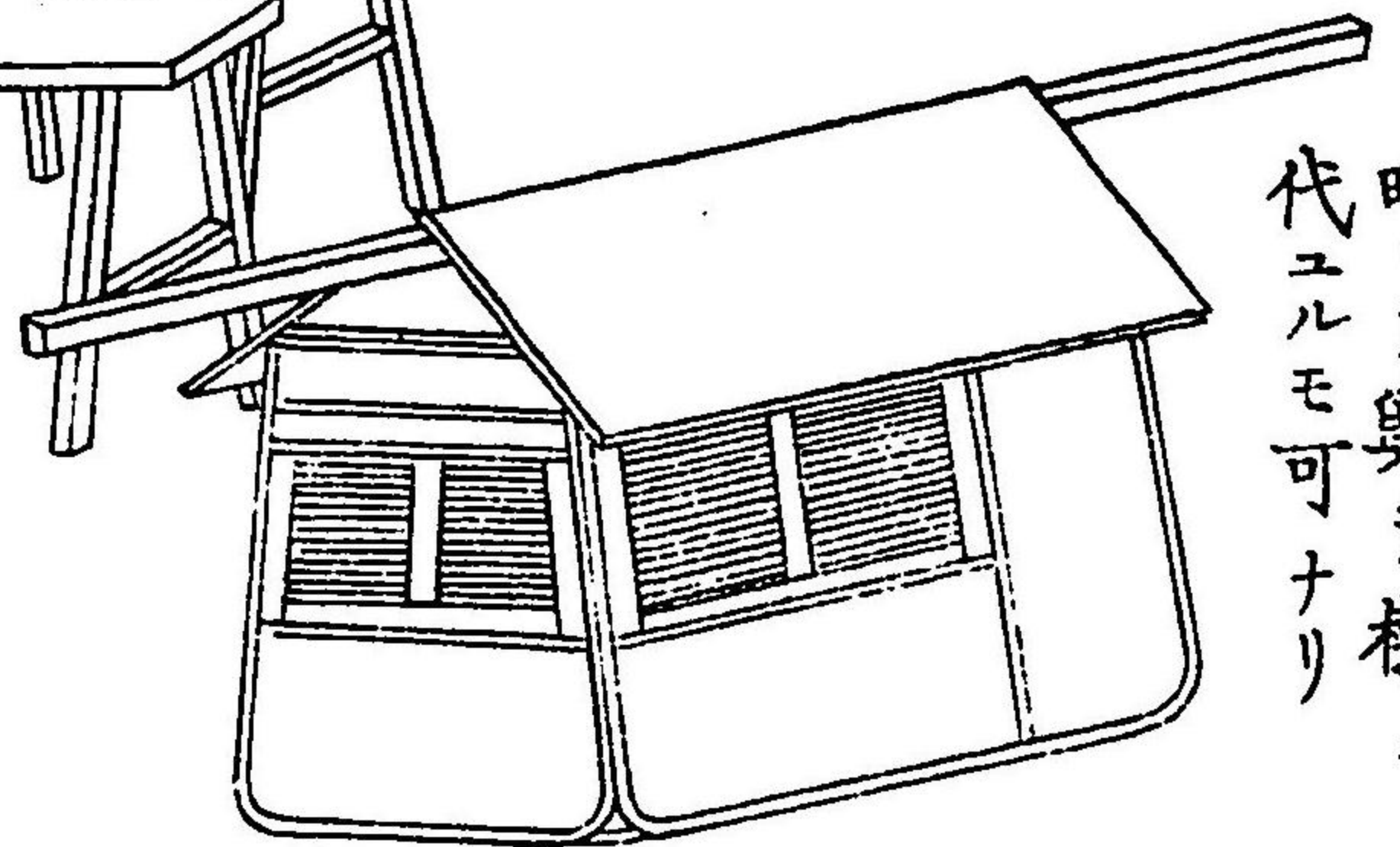
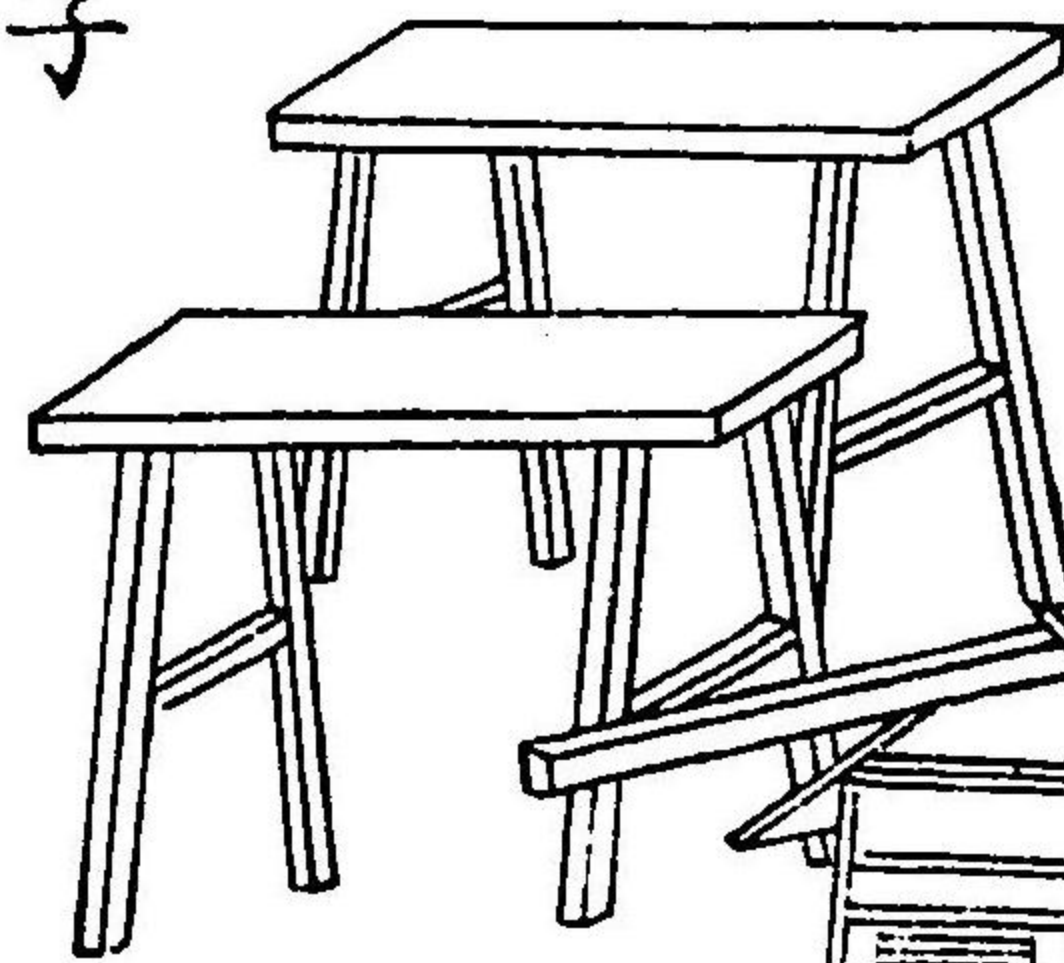
柑



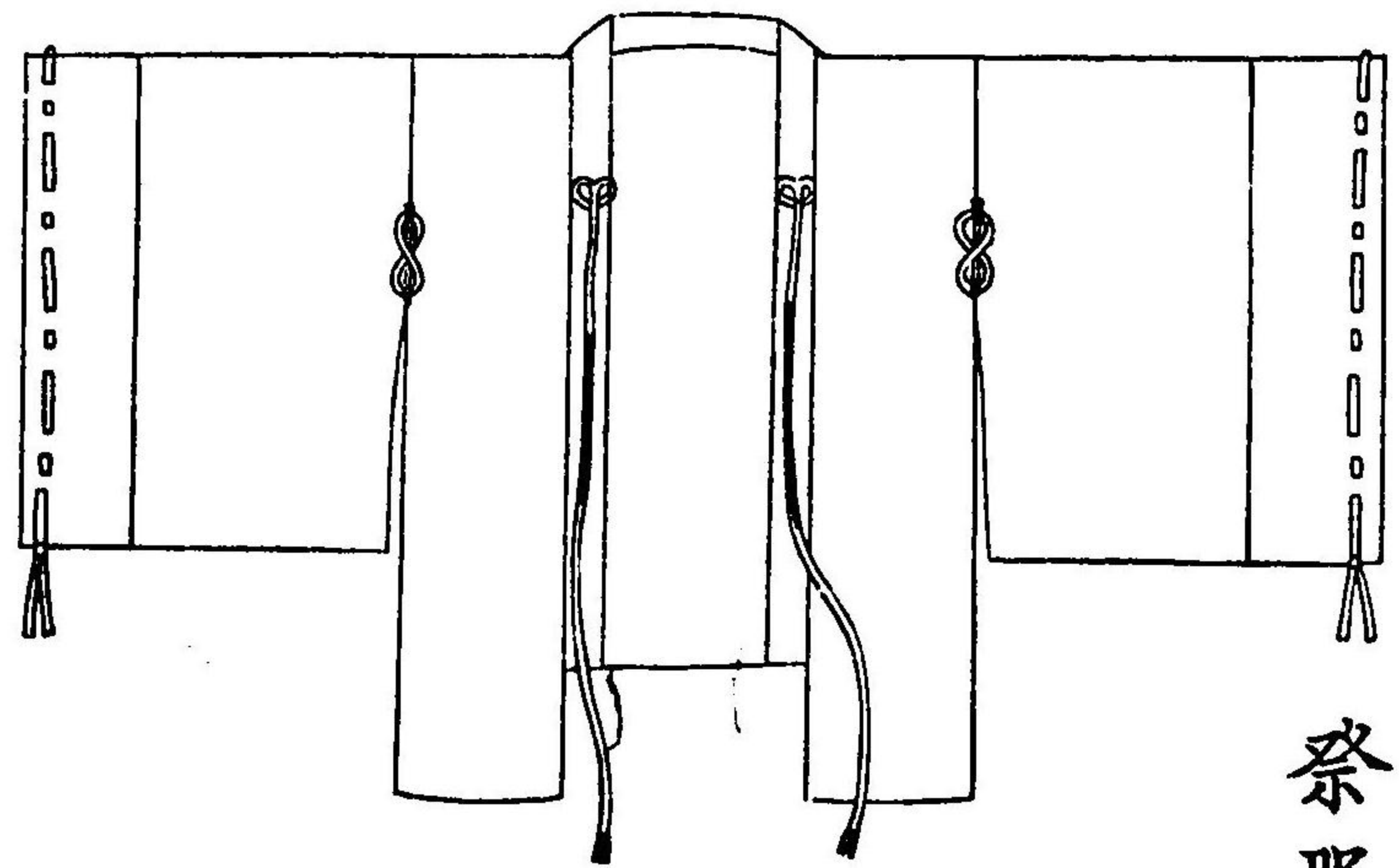
檨



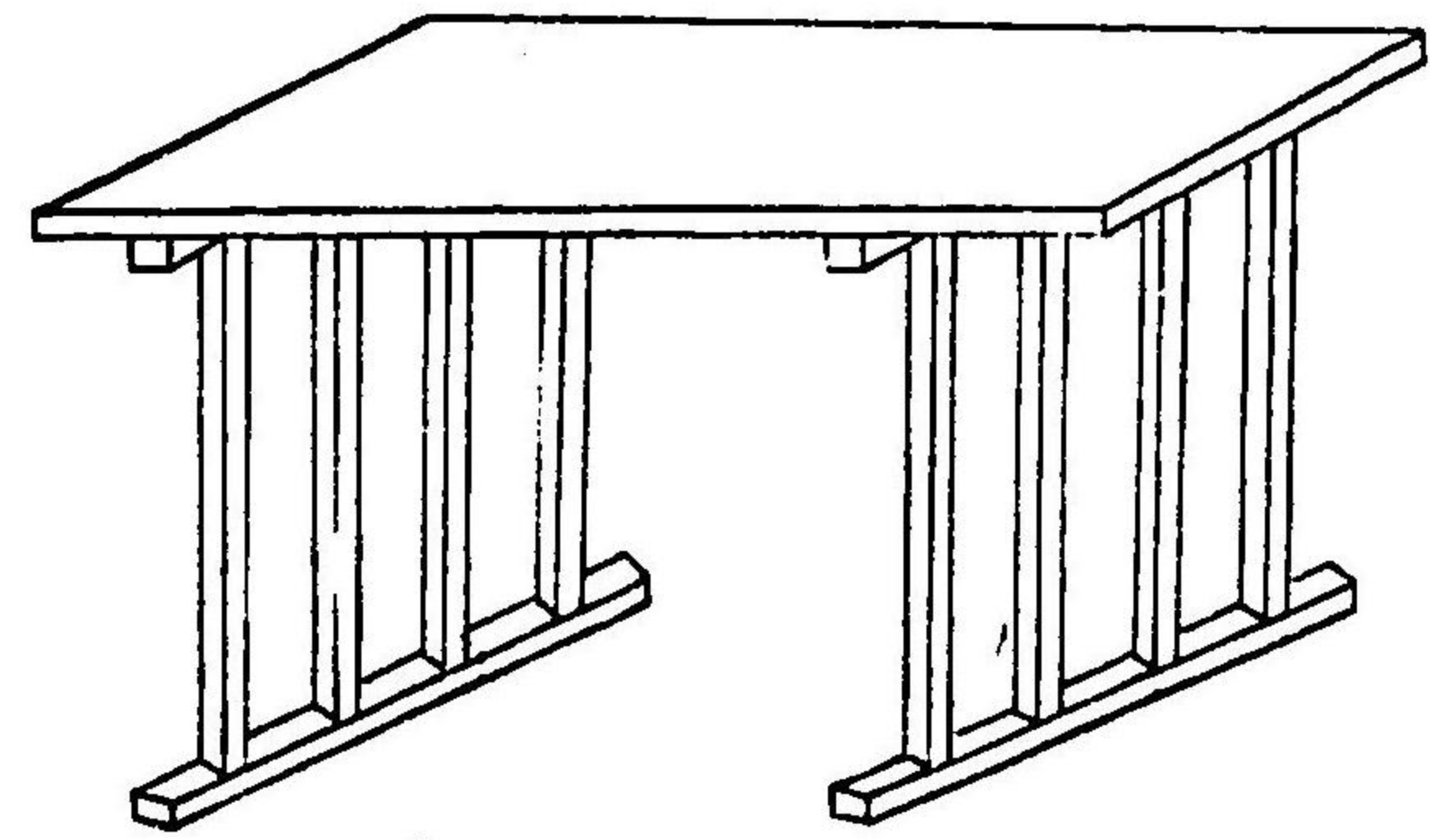
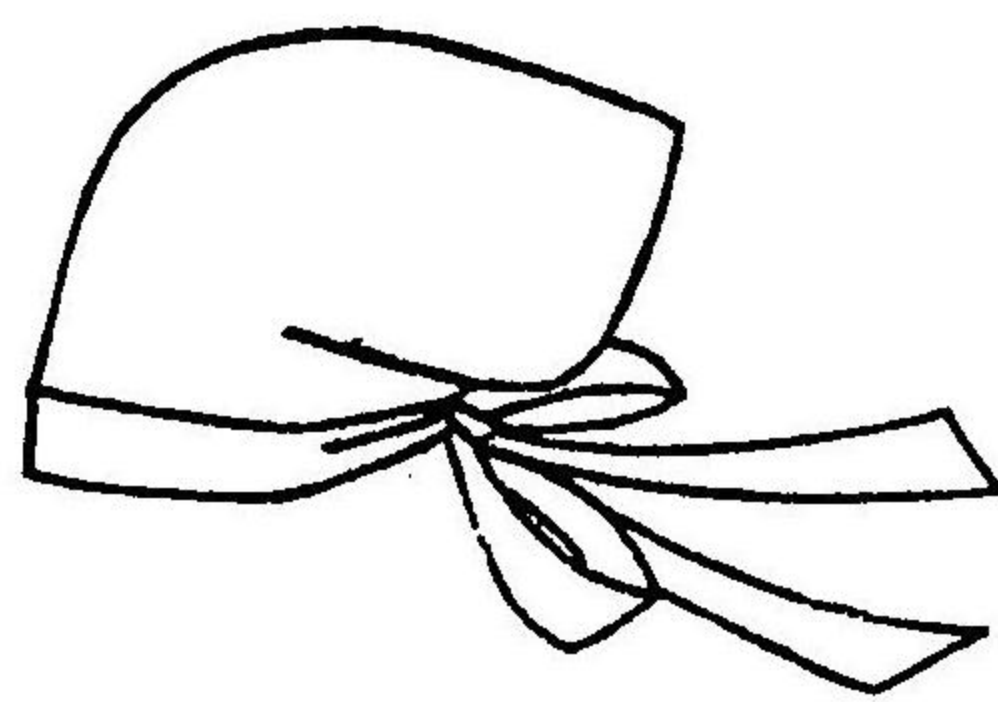
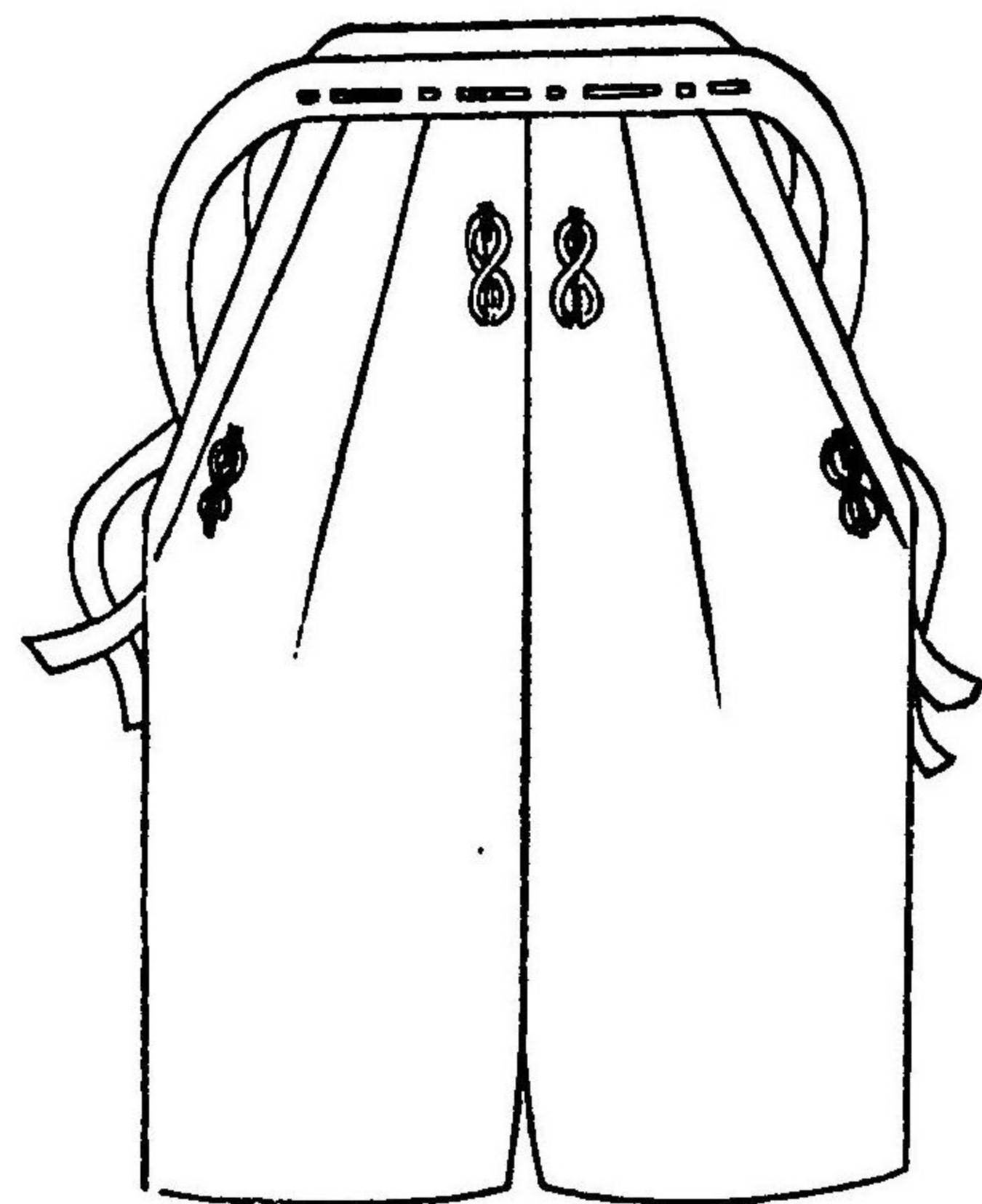
凳子



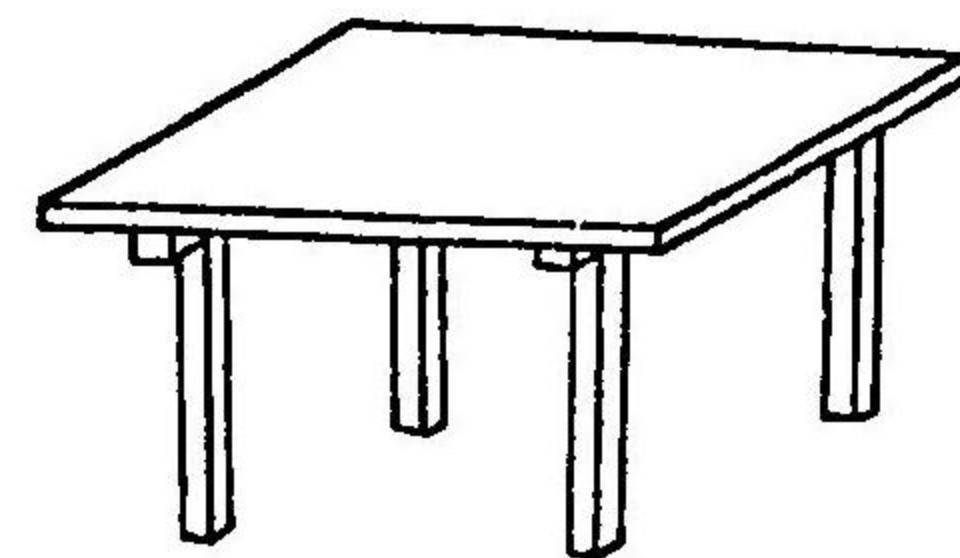
略シテ興ヲ檨ニ
代ユルモ可ナリ



祭服



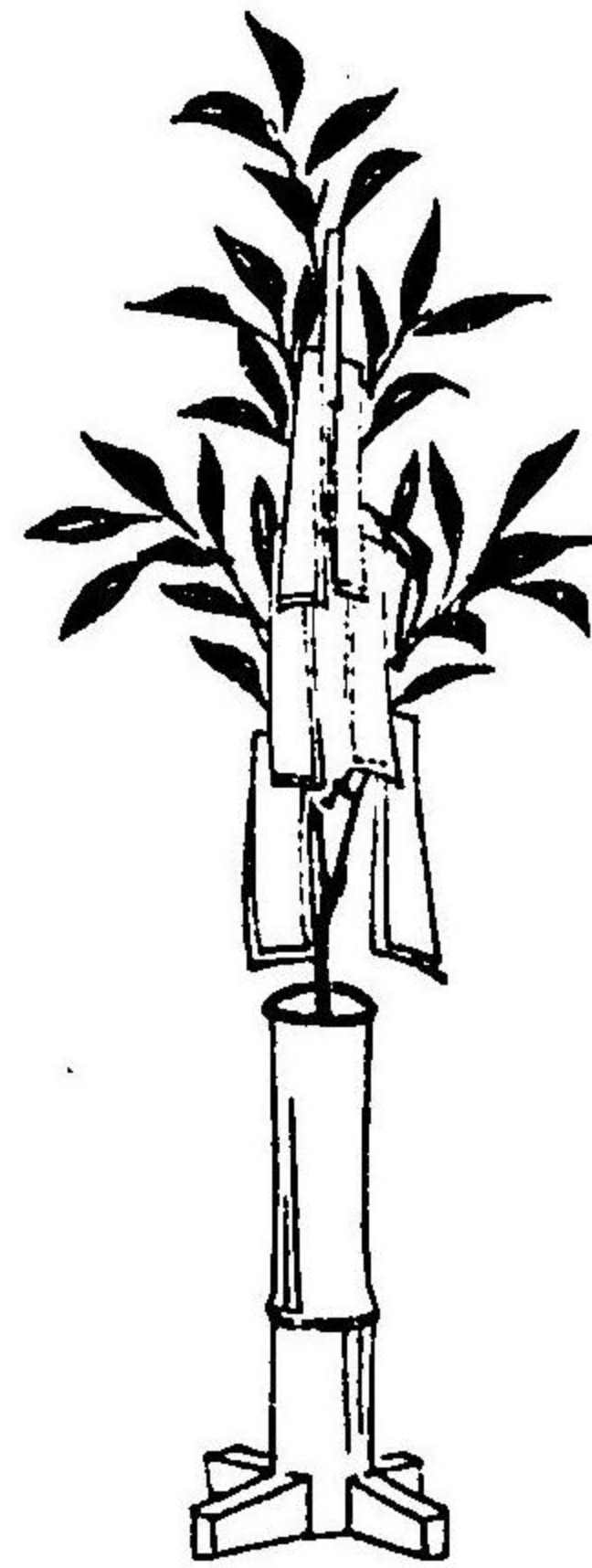
案



机

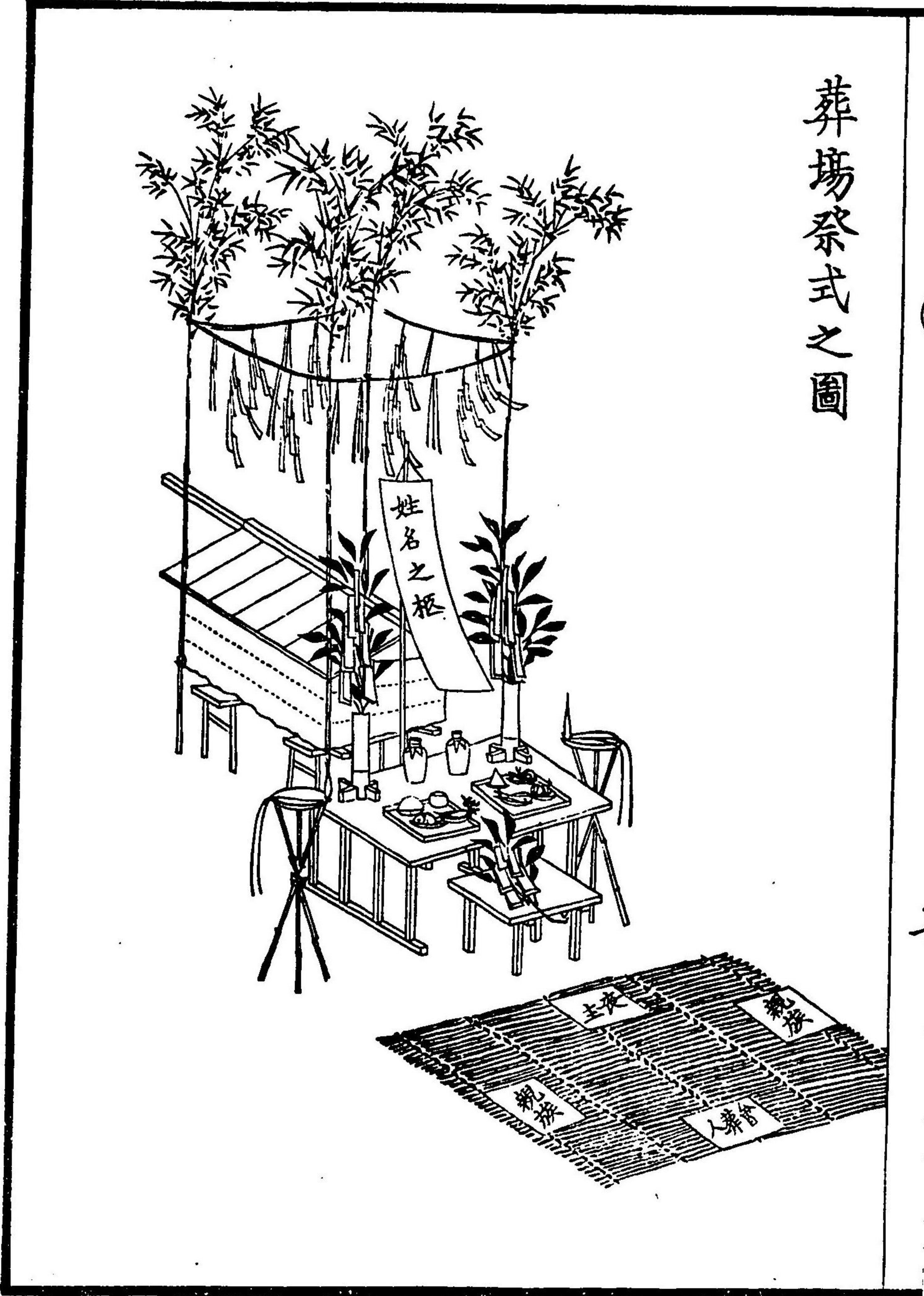


玉串



神ニ紙垂ヲ着クル圖

葬場祭式之圖



七

墓所祭之圖



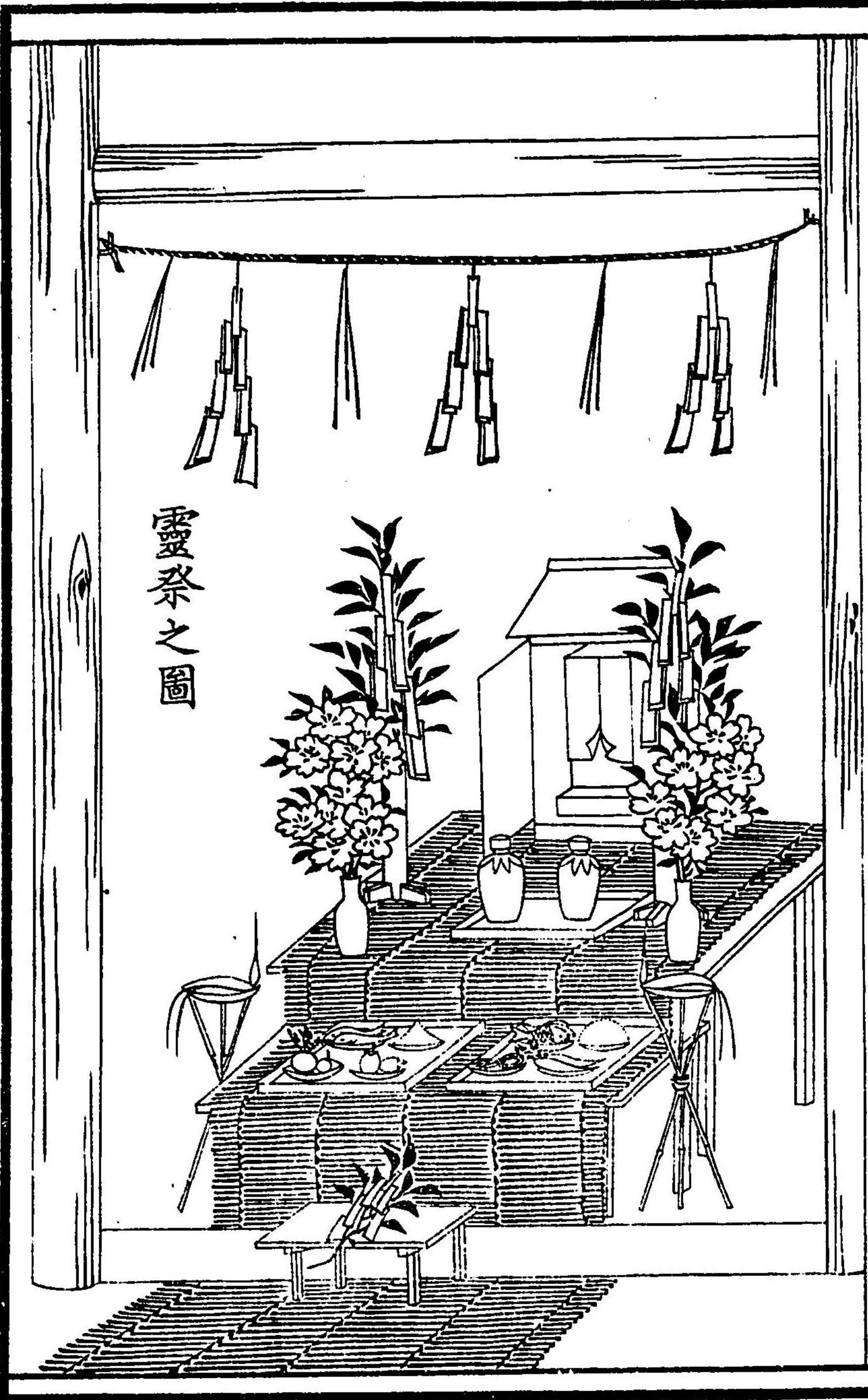
一
一

一
一

○棺ハ足ノ方ヲ先ニシテ昇ヘシ葬地ニ至ラハ茲
 庭ヲ敷キ中央ニ凳子ヲ並ヘ其上ニ棺ヲ置ヨリ方
 シスヘ諸器械ヲ陳ネ酒饌神木時ノ花ヲ供ヘ左右ニ
 庭燎ヲ設ク此ニ於テ喪主始メ親族并ニ會葬人ニ
 至ルマテ蹲踞ス此ノ時喪主起テ正面ニ向ヒ五串
 ヲ供ヘ再拜拍手シテ葬詞ヲ告ク
 吾命乃御前ハニ白久コ此乃所手千代乃御墓所
 止奉定天仕奉留狀乎平久聞食天堅石爾
 常石爾安久オホヒニ鎮坐天子孫乃繼々長久參集
 令仕奉賜止ツク畏美畏モ白ハニ
 ○又再拜拍手シテ退キ次ニ親族參拜出棺ノ禮ノ
 如シ拜礼畢テ饌ヲ撤シテ會葬ノ人ニ一礼ス夫ヨ

リ棺ヲ壙中へ降シ土ヲ覆ヒ此上ヲ堅ク築造シ圖
 ノ如ク藩籬ヲ繚ラシ木標ヲ建テ案ヲ置キ供物ヲ
 ナシ神木及時花ヲ建テ注連繩ヲ組スヘシ
 ○葬事畢ラハ河頭ニ至リ襖被ス又門口ニ水塩洗米神木
 麻紙垂マシ置キ清淨ナル人ヲシテ解除セシムモ可ナリ汚穢ニ觸レ
 タルモノハ草履ヲ脱キ手足ヲ洗テ清淨ニス
 ○喪家出棺後舎内ヲ灑掃シ又水塩散米神木麻四垂
 以テ全家ヲ被ヒ清メ而シテ後靈舎床或ハ清潔ノ布設
 靈主ヲ後圖ノ如ク祭リ家族順次ニ拜礼スヘシ
 ○後圖ノ如ク靈舎ヲ設ケ注連繩ヲ組シ菘苳ヲ敷
 キ靈主ヲ安置シ神木麻四垂時ノ花ヲ立テ酒饌ヲ供ス
 夜ハ燈ト當日ヨリ五十日間此所ニ祭ル也殊ニ十日ノ

夜毎ニハ親族隣保會集シテ厚ク祭ルヘシ



靈祭之圖

○五十日或ハ三十日間毎日酒饌ヲ供フルト雖十日
 毎ニハ殊ニ酒饌ヲ厚クシ祭祀ヲ嚴ニス
 ○五十日ノ忌明ニハ早旦沐浴改服燧ヲ鑽リ靈主
 ヲ家廟ニ合祀ルヘシ
 ○靈主ヲ先靈ニ合祀ル時ハ酒饌ヲ相嘗ニ供ヘテ
 祭主再拜拍手祝詞ヲ告ク
 吾必命乃御前ニ白久ク神避坐シテ天ノ与ケ今日五十日
 止ル云日ニ成ル故靈主ト靈舍ニ移志奉利代々
 乃御祖等止ル共ニ招奉坐シ奉御祭仕奉止ル
 爲シ天種々乃饌物ト乎作供奉ス狀平久安久聞
 食ハ天子孫乃八十連屬ト至麻守幸遣給止ル恐美
 恐シ美シ白ク

辭別ハ天ト遠ト都ト御祖ト代ト々ト乃ト御祖ト又ト親族ト乃ト神靈ト乃
 御前ニ白ク其乃靈主ト乎此乃靈舎ト尔奉移ト止ト爲シ
 美ミ天テ奉ホウ留ル饌ツ物ト乎相嘗ト尔聞食相ト守豆奈ト比給ト止ト恐コ
 美ミ恐コ毛モ白ク

- 再拜拍手畢テ親族拜礼スヘシ
- 此日神官ヲシテ家ノ大後ヲナシ神棚ノ封ヲ解
- カシメ始テ神前ヲ拜ス
- 大概一周祭マテニ墓碑ヲ建テ墓標ヲ除クヘシ
- 碑寸法又臺石ハ適宜タルヘシ
- 側ニ歿シタル年號月日ヲ記スヘシ
- 墓誌ノ銘モ隨意ニス
- 墓碑ノ圖大概左ノ如シ

墓碑



西点
 伊澤九阜寫
 團

○左ヲ式年トシ分ニ從ヒ靈祭スヘシ靈祭日ハ其
 歿日ヨリ○十日○廿日○卅日○四十日○五十日
 ○百日○一年○三年○五年○十年○廿年○三十
 年○四十年○五十年○百年○百五十年○二百年
 漸次年ヲ逐テ孝子順孫ノ誠ヲ竭スヘシ
 ○靈祭ノ時ハ祭主左ノ祝詞ヲ讀ムヘシ
 吾母命ヲ神靈乃御前ニ白ク今年月日何年乃
 御祭仕奉留爲天親族參集天御酒御饌乎始
 種々乃物乎作供奉留平久安久聞食天此乃家
 内ニ禍事不令有子孫乃八十連屬爾至天御祭
 絶事無久令仕奉賜止恐美恐毛白

○靈祭次第

先靈主ヲ案上ニ安置ス清浄ノ正室ヲ檢シ案ヲ置
 布キ後ニ屏風ヲ建ツ
 次酒饌ヲ供ス
 次玉串ヲ献ス 再拜拍手
 次祭主祝詞ヲ白 再拜拍手
 次玉串ヲ献リ拜禮 再拜拍手
 次親族拜禮
 次墓所參拜酒饌水塩洗米神
 木時花ヲ供ス
 次靈舎ノ酒饌ヲ撤ス
 次直會
 ○靈主ハ顯ハニ祭ルヘカス上ニ記ル如キ帋ヲス

○先祖父母ノ歿シタル時ノ靈祭ハ云ニ及ハス忌日又ハ春秋兩度厚ク行フヘシ春秋ノ祭ハ吉祭ナレハ忌日ト同シカラス春ハ一月一日二日三日秋ハ七月一日二日三日ヲ以テ適宜ニ日ヲ年首ハ勿論祈年紀元節神武天皇祭神嘗祭新嘗御祭典日産土神社ノ祭日ニハ凡テ吾家ノ神棚ノ大神等ヲ奉祭スルヲナレハ之ニ從テ御酒御饌鏡餅等ヲ供フヘシ祝詞祭式ハ上ノ靈祭ノ處ニ照準スヘシ

○葬地祭

○新ニ墓所ヲ撰ハントセハ豫メ其土地ヲトシ神官ヲシテ其地ヲ後ヒ清メ忌竹ヲ建テ端出之繩ヲ

絙シ菘筵ヲ敷キ案ヲ置キ地主神ノ神坐ヲ設ク坐神垂ハ案上ケケ神立トス酒饌ヲ供シ祭式恒ノ如シ其祝詞左ノ如シ

此乃地乎宇斯波岐坐須吾大神乃大前尔慎美敬比白久此度姓名乃為尔新墓所乎營美造年為天御酒御饌海川山野乃物尔至天奉利置止乞願白状乎平安久聞食天此乃奥津城尔長久願久災事不令有平穩尔令有賜止開畏美畏毛白

○地祭ハ其處ノ神官ヲシテ行ハシメ豫メ定メ置クヘシ臨時ニモ亦神官ヲシテ行ハシムヘシ

ト墓地ニ同スレ
地祭及ハズ

附 葬祭大意

○親族等葬祭ノ關係徒ハ已^ヤむを得^レ酒食茶烟
草^コを喫^クといへども只會葬^キのみ^ノ者ハ飲食^ヲを禁^ム
む^カ人^ヲを^シ葬家^ノ穢火^ニ觸^ルれ^ルハ神^カ
祇^ミの甚^クた憎^ムみ賜^フを以^テ也

○柩前^ミ誄^ヲを言^ヒる^ル其文^ハ生涯^ノ勲勞^ヲを贊^ム
其永訣^ノ歎^ク等^ノ詞^{アリ}於^テ十日^祭リ^ハ靈^前ノ
畧^カ可^シ

○葬祭^ノ式^ハ其格^ノ不^レ應^ズて制^スる^ル所以^ニテ禮^儀
貴^ハ賤^ハ不^レ異^ナり賤^ハ貴^ハ不^レ同^ナし^テ勿^レ論^ス

おれ半分を守て質素を旨とせ然れども人間一
世の大禮おれば其人相當の力を盡す
○酒肉ハ禁むる所不非どく雖悲哀謹慎の時
方りて好んで生魚を焼炙し親類朋友を會し美
味珍饌を設け宴安遊興不似ふを嚴制し謹で
報本及始慎終追遠の誠を竭し恭敬誠實の大禮
を行ふ

○延曆十一年七月廿七日の太政官符應禁斷兩
京僭奢喪儀事の條右被右大臣宣傳奉勅送終
之禮必從省要如聞豪富之室市鄽之人猶競奢靡

不選典法遂敢妄施隊伍假設幡鐘諸如此類不可
勝言貴賤既無等差資財空爲損耗既寔之後酣醉
而歸非唯虧損風教實亦深蠹公私宜令所司嚴加
捉搦自今以後勿使更然とある往昔聖時の政令
を遵守し又孔丘が禮與其奢也寧儉喪與其易也
寧戚と云へるをと思ふ

○凡て服忌を受ることハ明治七年十月十七日
太政官第百八號の御布告ハ○服忌之儀追て被
仰出品も可有之候得共差向京家の制武家の制
兩様ハ相成居候てハ法律上不都合有之ニ付

自今京家乃制被廢候條此旨布告候事と云ふ
據る處

○靈場ハ墓所を以て本と云然と雖も居宅にも
靈舎を設け注連繩を組し神木時花を建て酒饌
を供して拜禮をおも即毎朝神棚に拜禮し産土
神又處々乃御社を遥拜し畢て靈舎を拜禮し
若汚穢ふ觸れ神祇を拜するふと或闕と雖靈
舎を拜するふと一朝と懈る可うら故に神
祇と同ト棚ふ祭鎮せ別ふ靈舎を設る處也先
靈の中ふ於てと父母ハ特ふ親あて祭る處し祭

りハ其分ふ應じ又父母存生中嗜む處の品吾晨
昏食する所此清饌時の珍物ハ必じ先靈前ふ供
へ而る後喫る處

○靈祭ハ其人ふ應し式を定めて祭る處し當日
ハ祭主始に舉家乃者及來會する處の親族の者
各衣服を改り祭主を翼けて謹慎恭敬を盡して
祭祀を行ふ處

○毎年例月先祖代々乃歿日ふハ遊宴ハ勿論万
事を慎み誠敬を盡して靈舎ふ酒饌神木時花を
供へ祭祀を行ひ又墓所ふ參拜し神木時花を供

不慮

○祭器ハ總て清潔を貴へハ檜杉の材を以新製
志多不白木瓦器械陶器の新々あるを由也
是其家の貧福不關也雖平素乃飲食衣服等を省
略て力を祭器に盡せハ子孫多々との道
也

○毎朝靈舎を拜むる詞

遠津御祖乃御靈世々乃御靈又親族乃御靈
等乃御前慎美敬白夜乃守日乃守
護幸遣給比命長久子孫乃弥益々令立榮

賜比御祭善久令仕奉給止邊畏美畏毛美白

○人魂要旨

靈魂ハ造化の大御神天之御中主大御神高皇產
の授け多々人魂物にして凡そ天地の間衆多
る生類乃中おも偏小人種を鍾愛し萬物の靈長
と天地の精を萃り萬物の粹を抜き玄妙靈異
ある靈魂を賦與へ玉ひて此顯世小生を稟け
り賜ふ故小神魂の吾體在る天神乃吾體鎮
復らり賜ふん為れハ上ハ神祇皇上下誠敬

を竭し下ハ祖先父母ハ大孝を致し其良智良能
煇精鍊して以て徳行を積り多を得る凡て歿
後乃骸軀ハ倏忽地ハ消ると雖靈魂ハ不死不滅
ふして杳然と上天ハ歸着る然れとも人其生前
品行の善悪邪正にとりて其歸る所も差等あり
故に其善るして正し者ハ上天ハ歸り其悪ふ
しと邪あ者ハ夜見國へ逐賜ふなり太古造化
大御神乃至靈至妙なる神慮を以て顯世と幽世
を分ち賜ひしより顯世ハ天皇天下比太政成總
括去賜ひ幽世ハ大國主大神長へハ冥府の幽事

を主宰去其品行比善悪邪正ふ依て信賞必罰去
賜ふと顯幽一途ある人もの公明正大
る我本教ふ違ふて不義無道に陥るものと
靈魂ハ本より神の賜物として靈物たる理を辨
へ智識を開き開明の域ハ進歩し此顯世の一生
ハ一大戒場乃如くある所以成明うし擔て皇恩
小報ひ神徳を仰ぐ天神の確定去賜へる幽理乃
如く靈魂直上上天或ハ神仙界ハ歸て永く真福
真樂を得る之小反して亂逆の悪行あるハ假
令顯世乃刑戮を免ると雖死て冥府の嚴律ハ漏

よきこと能くも靈魂夜見國又ハ妖魅界へ逐放
れ真苦真艱を受つゝの神典ふらえ多る如く日
本書紀纂疏小人爲惡於顯明之地則帝王誅之爲
惡於幽冥之中鬼神罰之爲善獲福亦同之抱朴子
曰天神賞善罰惡とあるは睹ざる所を戒慎し
聽ざる所を恐懼して深玄弘大なる顯幽乃神
理を辨ふる也

明治九年二月廿九日出版版權御願
全 年三月十日版權免許

定價拾七錢

著述者

岐阜縣平民
稻荷神社大宮司
安江靜
伏水第一區榎木橋町土番地寄留

出版人

京都府士族
城南離宮社祠官
鳥羽重義
紀伊郡第一區中嶋村千七番地居住

